

おしえて!

# わん🐾にゃん通信



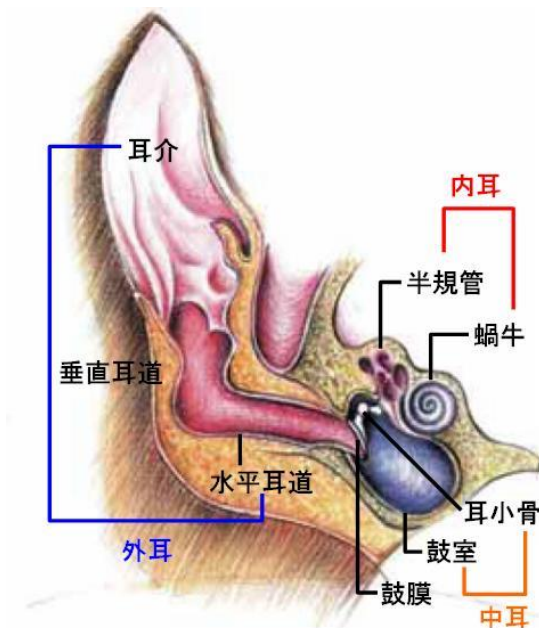
2018,08,11

とても暑い日が続いています。熱中症には十分に気を付けてください。

今回はわんちゃん、ねこちゃん耳についてです。種類によって垂れていたり、立っていたりと様々な耳の種類があります。耳は音を聞くだけではなく、ボディランゲージで感情を伝えます。

人よりも高周波の音が聞き取る事ができ、聴覚は人の3～4倍ほどと言われています。

まずは、簡単に耳の構造についてです。



## ①外耳

耳介、垂直耳道、水平耳道、鼓膜

わんちゃん、ねこちゃんの耳道は人とは違い途中で曲がり細くなっています。

## ②中耳

鼓室、耳小骨

耳小骨(ツチ骨、キヌタ骨、アブミ骨)は、てこの原理で鼓膜の振動を約3倍にして内耳に伝えます。

## ③内耳

半規管、蝸牛

聴覚、平衡感覚をつかさどっています。

次に、お家でできるわんちゃんねこちゃんのお耳のお掃除についてです。

人と同じ様に綿棒を奥まで入れてしまうと、耳の構造上、耳の出口に出てきた耳垢を耳道の奥に押し込んでしまう事になります。そのため、綿棒は使用せずに出てきた耳垢をコットンなどで優しくふき取ってあげてください。強くこすり過ぎたり必要以上に掃除すると、耳の皮膚を傷つけてしまう恐れがあ

ります。

また、耳の洗浄液を直接耳道の中に流し入れるという方法もあります。耳道になみなみと洗浄液を入れたら耳の付け根辺りを軽くマッサージしてあげましょう。わんちゃんねこちゃんが頭をブルブルと振ることで、洗浄液とともに耳垢が外に出てきます。出てきた耳垢はふき取ってあげてください。

また、わんちゃんの中には、耳道の中にたくさんの耳毛が生えていることもあります。抜いたり、切ったりしてあげることも必要です。

耳はデリケートな部分でもありなかなかお掃除をさせてくれないこともあります。無理にお掃除をするとトラウマになってしまう事もあるので、おやつなどを使いながらできる範囲で少しずつおこなって下さい。



最後に、わんちゃんねこちゃんに多い耳の病気についてです。耳の病気はとても沢山ありますが、今回はその中のいくつかを紹介します。

#### ○外耳炎

垂れ耳の犬種(特にレトリバー系やコッカー、スパニエル系)に多く、湿度の高い梅雨の時期などになりやすいです。また、皮膚の弱いフレンチブルドッグや耳道に毛の多いプードルにも多くみられます。

症状としては耳が普段より臭くなり耳垢が沢山でたり、皮膚が赤くなり耳の穴がふさがってしまったりします。

かゆみで首の辺りをよく搔いたり、頭を激しく振ったりします。耳を掻き壊してしまう事もあります。

#### ○耳血腫

外耳炎などの耳のかゆみや耳の中の異物などで頭を激しくブルブルと何度も振りすぎることで、耳の毛細血管が切れ耳介に血や漿液がたまりはれてしまいます。垂れた耳のわんちゃんネコちゃんに多いですが、立ち耳でもみられます。耳の形が変わってしまうこともあります。

軽度の場合には注射器などを使いたまってしまった液体を取り除くことも出来ますが、ひどい場合には手術が必要になります。

#### ○内耳炎

内耳に腫瘍や炎症が起こることにより、平衡感覚を失い頭が傾く(斜頸)、黒目が左右に揺れる(眼振)、同じ方向にぐるぐる回る(旋回)などが起こります。

吐き気や嘔吐、食欲不振も引き起こします。

耳の病気は治療が長引く事もあります。気になったら早めに病院で診てもらうことをお勧めします。

シンドウ動物病院

